

外
計
算
機

計
算
機
的
發
展

日
本
語
的
價
值

中倍首相が、靖国神社参拝について態度を
明確にしなされた。が、あのまゝでいると
マスコミが批判した。そのせいばかりではあ
るまいか。支持率が下がった。日本人はいつ
のまにか、よいまいか嫌いになつてゐるらしい
たとすれば、は大きな変化である。
戦後、アメリカから、日本人はよい事い
である、イエス、ノー、たつてはつきりしなると
悪く云ふれ、その都度、日本人は 恐縮して
きた。それでだんだん寧ろ直さかよいのだと

思うようになったのかもしれない。

ぼつさりしたものの云い、^即か、映画にはかした
左の云い方よりもおもしろいように考えるの
は、歴史の浅い社会の人間が誤解である。軍
輪を重ぬた文化で、露骨より婉曲を導ぶの
である。こどもは大人の食や穿をことばで
解しない。

同じ英詩をつかっているが、イギリスの
ことばはアメリカ英語に比べて、ずつとソフ
トで、陰影に富んでいる。味、ぬいも深い。日

本はイカリスに死んでぼるかにこと出の正史
が長いをケ、婉曲でよいもの表現人の孤み
がよい、バカ正直なことで、新権たど軽
んいふ山の^イむある、念の^イあること、はか美
しいと感じられる何故かある、
昔、雨の中、妻を借りに来た人に、山吹の
枝を差し出した少女は、婉曲なことは、透いの
鏡のように考へて、^ホ身^ホを^ホ自^ホた^ホたり^ホありません
と、片つをりまう代りたり、七重八重袖は咲けど
と山吹の、実の^ホ花^ホと、おになきを悲しき、の山

晩で答えたの片儀にやさしくいひある。こと
 出の政差が専らに発達してゐると。こうい
 う問答は考えられぬ。
 かつて新カリスのキヤール首相が議会答
 弁の中で~~議院~~議員のことを、肌細に異言を
 呈する議員。と呼んで、ユーモアを称えられ
 た。しかし、ザンブン露骨でとて、焼曲と
 ばは云ひがぬら、(そのころ白紙のまゆ) 政黨
 は国会で「バカヤロー」と叫んで解散の連
 込に入った事柄のおこつてゐる。ユーモアを解

すまじいんあははは

した人ひも 意かきとまのむきま()

白痴人は日徳や生流ひも、何おした云い方

ひ人同脚指を何踏にしている。まうしくお

飲いします。というときや、いあしくいか何

ひぢまか、双方バぶうせりしていることばす

くまいか、まひひめかり合っている。精精

ひすいとまると、とまに強奪する、食んもの

なとすすめうれて、精精ひす。というのには

ー、サシキエーのこむか、有ひない物留

学生なひは、まうかどうと誤解する。日

友人で、そこだつてに、悪質セールスを
 する者がいる。ことあるつもりで、競争イと
 云ったのを、イエスと云ったと云うかかりを
 つけてトウナルなる、こればかりです、巧
 妙な法術をする業者もある。甘いまいる者
 を加してあつて、断めたつもりで返事を
 出すと、それがお返事をにされてしまうというケ
 ースもある。自説文章が読解会ひは、お委員に再
 三、ここのうううはむ、かかろないようを教える
 をしている。ことばの転換をしている人たちが

まいた

に

6

被害を肩がける、というのをおおしき

そこへ行くこと、どうもどうも、は愛嬌で

ある、舞後、昭和二十五、大倉ころ、サウリ

ノマニロ間から流れたことおびえる。お

娘よう、こんなうは、さようあら、すみませ

ん、取りかとうなと、さまがまな懐い方が出

きて傾斜のある、望つたり言うやうに軽くて

いいというので、あつた

どうもどうも、りがあくなつたころから、

お娘が俳句をつくる、あえ出した。お娘俳句證

盛の理ゆはけりいさむあうか、俳句の念々
 の身も裏脱の魁力に瓜かれまてこそか大きい
 ように雲山ぬる。とんかく俳句はあいまいの
 かたまりのさうな詩である。あいまい模範
 公れを云うていろのか定かにはあかりのぬる
 か、そこがたまらなくおもしうい。その好き
 なる個人まむ俳句を作り出したところを見
 ると、あいまいの美も案外、海を渡つて国際
 的に有りつつあうのたましれぬい。
 三ノ山ハビバ、サリニアの昔から、あいま

まゝは日本の敵とされてきた。イギリスのライ
オン・エニフリンの
聖母（一九三〇年）はそれを広げくり返すもの
で世界をおどろかせた。文藝の美を思ひま
り動員に加めたのは欧米においてはゴッ
ラスの発見であるが、日本人がおどろいたの
はおかしら。十五世紀、ルネサンスの
には、まことにそれらの美意識が説かれていた。
日本はそれらの美意識の先遣国であることは
疑う事りしてゐる。

あいまいな美辞は受け命が洗練されてい
 るりと見まじない。野暮な相手では白紙
 白、黒は思ひ取っては方うるへか。通人は
 なんどいう、ぬすみいうの方がおもしろい。
 面白いなことばがとれるは相手を
 理解している。外交辞令という面白い事
 物も相手を立てるかうむありうる。相手を
 立てるとは敬語の心に通じるてころを
 もっている。敬語が乱れてくるは時代の
 いまは敬語が乱れるは愚昧なまじりか。